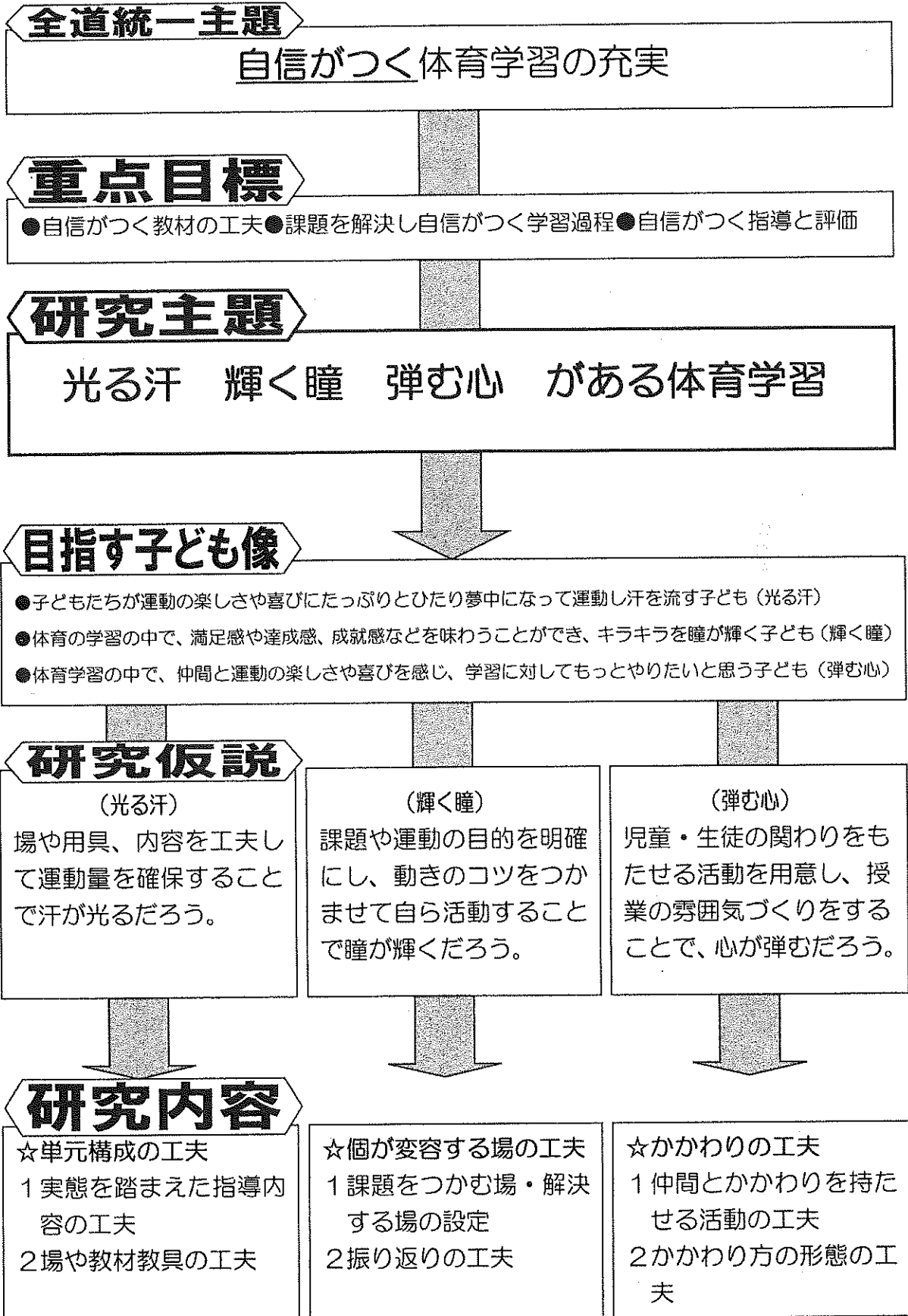


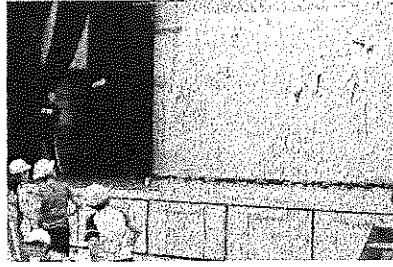
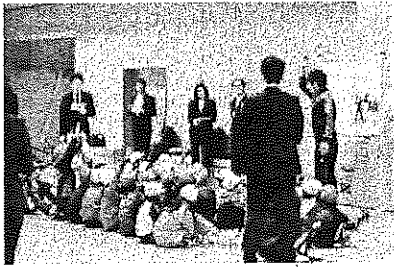
オホーツク支部の取組

1. 研究の構造について



2. 今年度の授業実践

(1)「平成30年度 オホーツク管内学校体育研究会公開研究会」 11月20日開催
 小学校部会 授業者 稲葉 大輝 教諭 清里町立清里小学校
 「つよく、とおくにみんなでなげよう (ボール投げゲーム)」



授業の様子

※文責：北山（小学校部長）

- ・巨大お化け倒し（グループで玉を投げてお化けが書かれたシートを落とすゲーム）という教材を導入に用い、みんな夢中で玉を投げていた。また授業の後半には、玉入れ投げ合戦を行い、2チーム対決形式でのゲームも行った。わくわくする【弾む心】教材をもとに、仲間とかかわり合いながらコツを見つけ【輝く瞳】、夢中になって投げる姿【輝る汗】が見られた。

授業の成果と課題

- お化け倒しという教材は、子どものモチベーション、教師側の意図からも非常に効果的であった。
- 短時間でも、仲間との交流・かかわりを持つことで、うまく投げられるコツなどを全員で共有し、投げることに自信をもたせることができた。
- ▲授業者のマネジメント力（時間配分・集合場所・教師の話の厳選など）の向上。

中学校部会 授業者 大西 祐貴 教諭 網走市立呼人中学校
 「体育理論（文化としてのスポーツの意義）」



授業の様子

※文責：小野寺（中学校部長）

今年の研究授業は、体育理論（文化としてのスポーツの意義）でした。スポーツは、さまざまな違いをもった人々を結びつける素晴らしいものであること、パラリンピックといった障害者スポーツに焦点を当てて研究をすすめました。次期学習指導要領には、「体験的な活動を重視し、「する・みる・支える・知る」のスポーツとの多様な関わり方やオリンピック・パラリンピックに関する指導を通して、スポーツの意義や価値等に触れることができるよう内容を改善する」とあります。今回の授業では、実際にゴールボールを体験し、障がいの有無にかかわらず、スポーツは楽しめるものであることやスポーツに対する魅力は変わらないことを実感し、2020年に行われる東京オリンピック・パラリンピックに向けて自分ができることを考えました。「する」「みる」「支える」+「知る」ことでスポーツへの関心や興味を持ち、自分がかかわることができるか、3年間の体育理論のまとめの時間としての学習をすすめました。

授業の成果と課題

	光る汗	輝く瞳	弾む心
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館での座学+体験という形式を提案することができた。 ・経験のない競技を体験するにあたり、事前に映像を見せ、おおまかな動きを理解していたことで全員が初めての状況でありながら指示にそって行動することができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選手や様々な規模のスポーツ大会の話などで単元を通して徐々に関心や知識を高まり、ICT 機器や資料の効果的な活用で、さらに考える幅を広げることができた。 ・生徒から「スポーツはすべての人が楽しむことができる」とまとめの言葉が出てきたことで、この単元で身につけさせたいことが達成できていたことが見取れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールボールを行った後、「もっとやりたい」と反応があり、「できそう」が「できた」に変わることを実感できる学習を展開できた。 ・パラリンピックに向けての関わり方への発表の様子から、知識の深まりが感じられ、単元を通して自分の考えをもつことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館内での座学と体験という形態を、生徒数が多くなった時の提案までできるとよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の称賛や喜び合いがさらに活発にできるとさらによい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発表に対して、さらに深める発問があるとさらによい。（例示、理由など）